

新年を迎えて

宮城海上保安部長 安尾 博志



新年明けましておめでとうございます。海上安全サポーターの皆様におかれましては、平素より海上保安業務に対し、特に海難防止啓発に係る業務に深い御理解と御協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、昨年は、長期化するコロナ禍により、密を回避するために屋外での活動が人気がとなり、小型船舶操縦者や釣り人が増加するとともに、これに係る小型船舶の海難や釣り中の海難増加も危惧されたところですが、SNS等を活用したサポーターの皆様様の積極的な啓発活動もあり、おかげさまで昨年の県内における船舶海難は大幅に減少し、釣り中の海難も前年程度に抑えることができました。

しかしながら、遊泳中の事故や漁業関係者の事故は大幅に増加したところであり、また、昨年4月の北海道知床遊覧船事故も踏まえ、安全対策の充実が求められるところとです。

このため、宮城海上保安部は、これらの事故や、未だ多くの割合を占める釣り中の事故の防止に係る啓発活動の強力な推進により、悲惨な海難の発生を未然に防止し、もって海に係る全ての皆様の安全・安心を目指し邁進する所存ですので、サポーターの皆様におかれましては、変わらぬ御支援御協力をお願い申し上げますとともに、皆様の御健勝とご発展を祈念いたしまして、新年の挨拶とさせていただきます。

釣り海難防止合同パトロール

例年、宮城県では秋季に釣り中の事故が増加傾向にあるため、令和4年11月10日、スリーエム仙台台港パーク釣り公園において、海上安全サポーター、宮城県警、宮城県、日本釣振興会と連携した「釣り海難防止合同パトロール」を実施しました。

同パトロールには、サポーターの谷田圭さん、戸田彩子さん、CARAV@N(菅原琢真さん、伊藤匠人さん)の4人のご協力をいただき、釣り人に対し、危険な場所に入り込まないことや救命胴衣の着用等呼びかけました。また、活動の状況は、地元新聞や雑誌のボート倶楽部、釣り東北に掲載されました。



合同パトロールの状況
(写真中央は、声掛けを行う谷田さん)

水族館での海難防止啓発活動

イベントブースや屋外ステージでの活動状況
(写真右は、インスタライブでイベント周知中の広瀬さん)



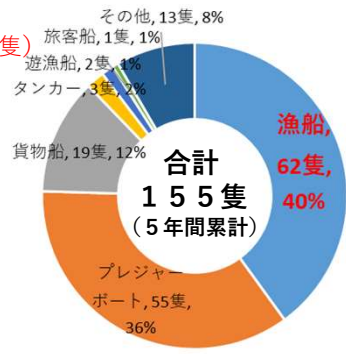
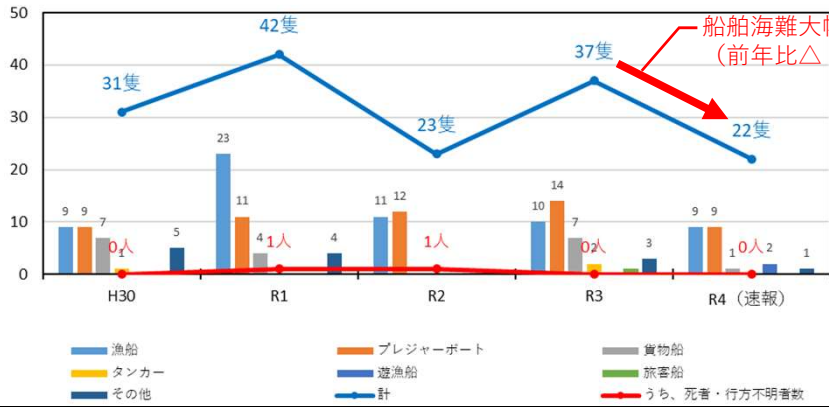
屋外ステージで海難防止を呼び掛けるCARAV@Nの伊藤さん、菊田さん

1月18日は海上保安庁緊急ダイヤル「118番」の日です。このため、令和5年1月14日、宮城海上保安部は、仙台下の杜水族館において、118番の周知活動に併せた海難防止啓発活動を実施しました。

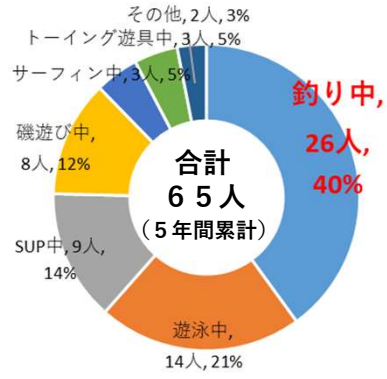
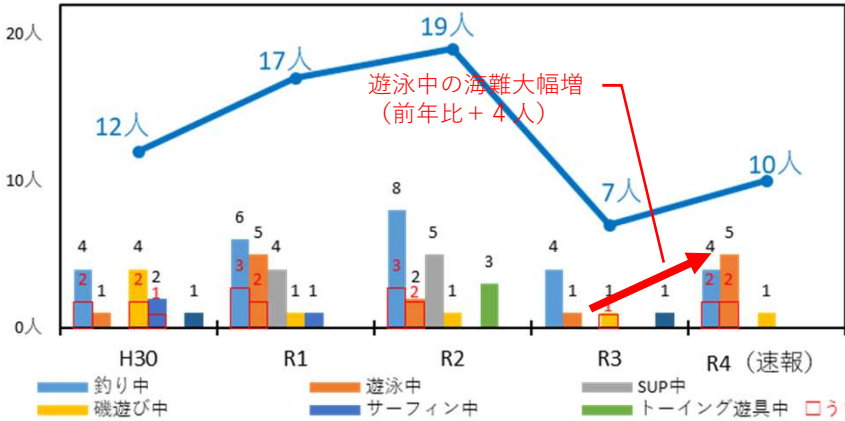
同イベントには、海上安全サポーターの広瀬まさみさん、CARAV@N(柘山剛さん、菅原琢真さん、伊藤匠人さん、大槻うらんさん、菊田綾音さん、久保カノンさん)の7人のご協力をいただき、約2,700名の来場者に対し、イベントブースや屋外ステージでリーフレット配布等により海難防止啓発に係る呼びかけを実施しました。

令和4年 宮城県内における海難発生状況

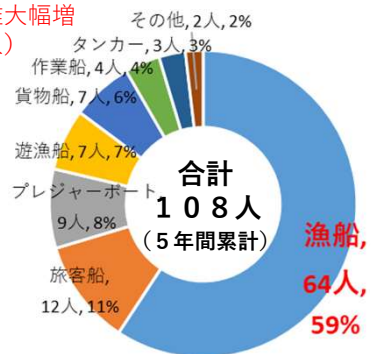
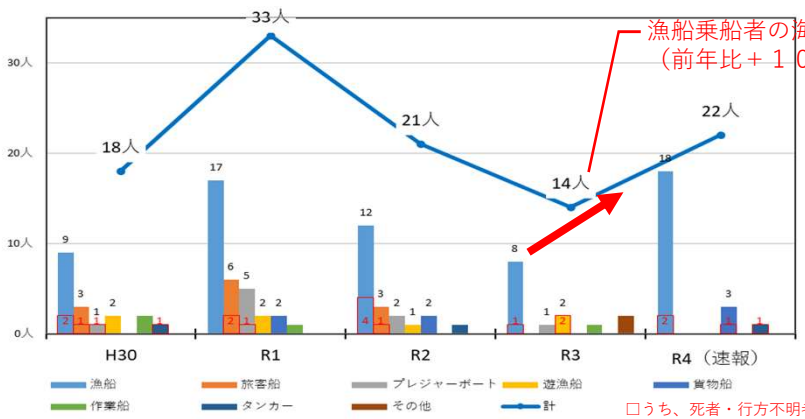
〔船舶海難の発生状況〕



〔マリレジャー中の海難発生状況〕



〔船舶乗船者の海難発生状況〕



■船舶海難の特徴
 小型船舶操縦免許証取得者の増加に伴い、小型船舶の海難増加が危惧されましたが、前年比15隻減の22隻と大幅に減少しました。

大幅な減少の要因として、宮城海上保安部及び海上安全サポーター等関係者による安全啓発活動並びに大きく報道された令和4年4月に発生した「北海道知床遊覧船事故」等により、船舶を運航する関係者の安全意識が高くなったことが考えられます。

■人身海難の特徴
 長期化するコロナ禍により、密を回避するために屋外での活動として釣りや人気がなり、釣り中の海難増加が危惧されましたが、前年と同じ4人となりました。

他方、遊泳中の海難は前年比4人増の5人（うち、死者・行方不明者は2人増の2人）と大幅に増加しました。

さらに漁船乗船者の海難も前年比10人増の18人と大幅に増加し、中でも揚網機やローラー等に巻き込まれる負傷が増加しました。

■今後の取り組み
 船舶海難では漁船海難が多くを占める傾向にあり、また、人身海難では漁船乗船者の人身海難が大幅に増加したことから、関係機関と連携し、漁業関係者に対する海難防止講習会の開催等により安全対策の向上を呼び掛けていきます。

また、引き続き、遊泳者や釣り愛好者等のマリレジャー愛好者に対し、開設された海水浴場で泳ぐこと、危険な場所に入らないこと等について周知を図っていきます。